

# 学校関係者評価報告書

2018 年度

学校法人 村川学園

大阪調理製菓専門学校 ecole UMEDA



## 【目次】

1. 目的
2. 2018年度学校関係者評価委員会開催概要
3. 学校関係者評価委員による自己点検・評価の重点評価項目への提言

## 1. 目的

学校関係者評価委員会（以下、当委員会）は、大阪調理製菓専門学校 **ecole UMEDA** 学校関係者評価委員会規程に基づき、大阪調理製菓専門学校 **ecole UMEDA**（以下、本校）の自己点検・評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として当委員会を組織した。当委員会は、本校の自己点検・評価を資料として、自己点検・評価委員会の内部評価を参考にし、さらに関係教職員との具体的な意見交換等を通して、本校の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。当委員会委員は本校の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から校長が選考し、委嘱している。

2018年度は、2017年度の自己点検・評価報告書を資料として、当委員会としての評価・助言を取りまとめ、本報告書を作成した。

## 2. 2018年度学校関係者評価委員会開催概要

### 第1回

#### ① 開催日時

2019年2月27日(水) (分科会) 10:00~12:00、14:00~16:30

#### ② 場所

大阪調理製菓専門学校 3階会議室

#### ③ 出席者（敬称略）

谷内 恵介(泉大津市総合政策部地域経済課総括主査)

栗林 義直(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)

川邑 千佳(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)

川端 花世(大阪調理製菓専門学校 **ecole UMEDA** 製菓総合本科3期生)

福村 壽之(元高石市社会福祉協議会 業務執行理事 兼 事務局長)

小西 智子(ヒルトン大阪 人事業務部 トレーニングマネジャー)

### 第2回

#### ① 開催日時

2019年3月22日(金) (分科会) 10:00~12:00、14:00~16:30

## ② 場所

大阪調理製菓専門学校 3階会議室

## ③ 出席者（敬称略）（予定）

谷内 恵介(泉大津市総合政策部地域経済課総括主査)

中川 千津江（学校法人 宣真学園 宣真高等学校 校長）

川邑 千佳(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)

川端 花世(大阪調理製菓専門学校 **ecole UMEDA** 製菓総合本科 3期生)

福村 壽之(元高石市社会福祉協議会 業務執行理事 兼 事務局長)

朴 美玲(スイスホテル南海大阪株式会社 人事部 マネージャー)

## 3. 学校関係者評価委員による自己点検・評価の重点評価項目への提言

### (1) 教育理念

#### 【現状の課題点】

現状は充実した設備やカリキュラム等の教育環境は整備されており、理念・目的・育成人材像も教職員間、学生間にも周知されているが、それらの学外への周知に関しては改善の余地がある。学校案内書とホームページによる情報公開を行い、その内容も随時更新していくことが必要であると考えられる。

#### 【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 学生指導において、こういった理念を元にされていたと思うと感動した。これを続ける事で、**2025**年の目標を達成できるのではないかと。
- ② 現場で通用するような実践的な指導を頂いたことに感謝している。
- ③ 卒業生の現状の確認についてはどの程度把握できているか。山本五十六の格言にあるように、やってみせる、言って聞かせてさせてみる。その上ではほめる事で人は動くので、教育においてほめる事は重要であると考えられる。

### (2) 学校運営

#### 【現状の課題点】

中・長期的には学生数の増減や求められる人材像の変化等、外部環境の変化に対応できる体制を構築することが必要となる。教育課程編成委員会を組織図の中に組み込み、企業と連携しながら業界の動向をカリキュラム、人材育成に反映できる体制を整えることが必要である。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 学校運営に関して特に問題点は見受けられない。健全な学校運営をしていると評価する。

(3) 教育活動

【現状の課題点】

教育活動の課題点と解決方法に関しては、教育課程編成委員会の本分であり、教育現場の意見をくみ取りながら業界のニーズや動向を把握し、適格な教職員の育成・教育内容の改善を図る。そのための今後の取り組みとしては、教育課程編成委員会が機能するように、学校法人 村川学園の長期的なビジョンを認識した上で計画的な人材育成と授業内容のカリキュラムの改善を提案できる環境を作る。現場からの意見の汲み取りや、どこまでの業界を把握すればいいか等、どのような方法が当学園に適合しているかどうかを把握し、定着させるためにPDCAサイクルを回しながら検討を行う。

次年度に向けては、より体系的カリキュラムを構築するために、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3ポリシーを明確化し、より養成する人材像を目的としたカリキュラム内容とすることとする。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 昨今の学生は、興味のある事にしか反応しないため、いかに興味のある情報を伝える事ができるかが重要。プロ現場出身の先生方がお話される事で、学生も興味を持ちやすいのではないか。
- ② 留学生に対する学校生活を送る上でのプログラム、就職に対するサポートできる環境が整っており、学生にとっては安心できるのではないか。留学生に対する手厚いサポートが、強みになってくると感じる。
- ③ インターンシップに関して企業としては、指示に従うだけでなく自ら発信する力をもった学生を求めている。アクティブラーニングを導入する事で、自ら発信する力を養成できるのはないか。メニューひとつ取ってもそこから何を読み取る事ができるか、ただ単に読むだけでなく器具や段取りなどの時間配分まで考える事が就職してからは求められる。実践を見越した練習が必要。・我々が求めているレベルと学生の考えている意識のレベルのギャップを埋める事ができれば評価は高まる。

(4) 学習成果

【現状の課題点】

現状としては就職率や、学生の就職活動状況は把握できている。今後の課題としては在校生に就職に関する有用な情報を提供できる環境と、それらを村川学園のノウハウとして構築する体制が必要となる。

就職率の向上に加え、就職をゴールとした教育内容ではなく、当学園で習得した調理や製菓を通した自己実現が社会のどのようなことに貢献できるのか、当学園が長期的なビジョンを描ける場の一つとなることが重要であると考え

る。これらの課題を解決するために、卒業生の退職事由の把握、卒業生からの意見を取り入れ、学生が学校に何を望んでいて、就職先ではどんな能力が求められているのかを的確に認識できるように努める。

#### 【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 食育の重要性が注目されている。様々な分野で教える事ができるようになる事が望ましい。複数の資格取得により、将来の幅が広がる。
- ② 退学率を抑えるための対策として、こまめに連絡を取る事に共感した。自社新入社員が、心の病気にかかる者が例年より多かった。月1回のフォローアップ面談など、より一層の細やかなケアが重要だと感じている。
- ③ 学び直しという学生がいるのであれば様々な世代に対して、入学訴求できると感じる。
- ④ 退職理由としては、業界が嫌になって辞める人は少ない。この一年の新卒採用に関して、心の病気で退職する者が例年より多かった。フォローアップに関しては、企業が想定している以上の頻度(月1回)で全体研修などを行う必要性を感じた。個々に対するフォローにプラスして、全体を集めて行う事が重要。イメージしていた就職のイメージと実際との差をいかに埋めるかが重要。そういった取り組みを入学前から行う事で、ギャップを埋める事ができる。ちょっとした事でも疎かにせず、学生に関与することで、退学予防につながる。

#### (5) 学生支援

##### 【現状の課題点】

利害関係がない卒業生の意見は公平であり、今後の当学園の改善方法を示す重要なヒントになると考えられる。協力的な卒業生は当学園にいい印象があるため、評価の高い意見を聞けるかもしれないが、重要なのは不満を持ちながら卒業した生徒もいるに違いないため、そういった卒業生がなぜ不満を持っていたのか、どこを変えればよかったのかという意見を得ることができる場を設ける工夫が必要である。

**【学校関係者評価委員からの提言】**

- ① インターンシップ時の賃金について、企業が出すのであれば固辞する必要はない。衛生教育や挨拶など貴重な学びの場となるので、より一層力を入れるべきである。
- ② インターンシップについて、有給となれば予算の関係上、人数の絞り込みを行う必要が出てくる。期間が1ヶ月以上の場合、雇用が発生し有給となり諸手続きが必要となる。

**(6) 教育環境**

**【現状の課題点】**

インターンシップの提携先に関しては今後、数を増やしていく予定だが、その選定に関しては慎重を要する。実習の質を落としてしまっただけでは何もならない。提携先の実習担当者との打合せ、学生の要望や就職先が求める能力を最優先の判断基準とし、現状の判断基準に囚われない、幅広い視野での選定を行う。

**【学校関係者評価委員からの提言】**

- ① 充実した設備を用いた、在校生と卒業生の交流の場を設定する事で双方にメリットがあると考え。今後卒業生との連携が必要であると考え。

**(7) 学生の募集と受け入れ**

**【現状の課題点】**

留学生、高校生の入学希望者の問い合わせへの対応、オープンキャンパスの受け入れ体制は整備しているが、入学を希望する高校生などの学費の問い合わせも多く、そのサポートの強化がより必要になってきている。保護者が学生の進学に対して相談しやすい体制を作る事が課題である。

**【学校関係者評価委員からの提言】**

- ① 高等教育、保育料の無償化について対象校となるような情報収集が必要である。

**(8) 財務**

**【現状の課題点】**

高等教育の負担軽減の機関要件を満たすためには、その要件に際して、今後財務状況の情報公開が求められる。ホームページ上で公開する準備が必要となる。

**【学校関係者評価委員からの提言】**

- ① 校長が一本化している事で、足並みを揃えて同法人の関連学校が集まり協議できている。18歳人口が減少する中でも、どういう学生を育成するか、学園三訓の意味を理解し指導する事で道は開かれ、安定した学校運営ができると考える。

(9) 法令等の遵守

**【現状の課題点】**

今の状況では特に課題点は目立っていない。しかし情報管理、特に個人情報の取り扱いの一つ間違えると信頼の失墜につながる。現段階でも表に出ていないだけで問題がないとは言い切れない。今後もセキュリティに関しては教職員だけでなく、学生も含めて組織全体で意識を高めていく。

**【学校関係者評価委員からの提言】**

- ① 特に課題点は見受けられない。健全な運営をしていると評価する。

(10) 社会貢献

**【現状の課題点】**

ボランティア活動は学生にとっては貴重な社会の体験となるため、当学園では推奨しているが、学生からの活動内容の報告をくみ取る仕組みが不十分であることが課題である。それらの就職活動への強みとなるだけでなく、自分の可能性の幅を広げるヒントになる。ボランティア活動を評価するだけでなく、それらの体験が貴重であることを気付かせ、様々な知的な好奇心を助長し、行動を促す取り組みが必要であると考えられる。

**【学校関係者評価委員からの提言】**

- ① 産官学接続について、地元泉大津市と連携し宣伝として何か取り組みを行うことができれば望ましい。
- ② 地域が抱える問題について、例えば商店街の活性化において、商店街と学校をつなぐ役割を担えればと考えている。
- ③ 就労系事業所で焼菓子を作成しているが、商品開発において、調理製菓の部分で講師派遣やコラボなど連携していきたい。

これらの課題に対し委員から頂いた提言を真摯に受け止め、教職員一丸となり一つひとつ課題を解決し、業界を牽引する人材の輩出に取り組んでいく所存である。